

ロボット事業紹介 Robot Business Profile

Kawasaki Robotics

川崎重工業株式会社 ロボットディビジョン

■ 問い合わせ先

東京 〒105-8315 東京都港区海岸1-14-5
Tel. 03-3435-2501 Fax. 03-3437-9880
愛知 〒480-1115 愛知県長久手市菟蒲池105
Tel. 0561-63-6800 Fax. 0561-63-6808
兵庫 〒650-0044 兵庫県神戸市中央区東川崎町1-5-7
Tel. 080-4140-7750
広島 〒732-0802 広島県広島市南区大州1-4-4
Tel. 082-286-1711 Fax. 082-286-1007
福岡 〒811-3135 福岡県古賀市小竹847-1
Tel. 092-940-2310 Fax. 092-940-2311

川崎重工 ロボットディビジョンサイト
<https://kawasakirobotics.com/jp/>



■ 主要拠点

東京本社 〒105-8315 東京都港区海岸1-14-5
明石工場 〒673-8666 兵庫県明石市川崎町1-1
西神戸工場 〒651-2239 兵庫県神戸市西区櫛谷町松本234

■ 海外関係会社

アメリカ／イギリス／ドイツ／韓国／中国／台湾／タイ／インド／シンガポール

Kawasaki Robostage
<https://kawasakirobotics.com/jp-sp/robostage/>



カワサキロボットサービス株式会社
<https://www.khi.co.jp/corp/krp/>



■ 専用コールセンター

受付時間 平日 8:30～17:30 まで

ロボットの専門的な知識を持ったスタッフが対応します。

自動車組立ロボットサービス Tel. 050-3000-4332
塗装ロボットサービス Tel. 050-3000-4333

※自動車・塗装・クリーン以外の産業用ロボット

一般産機ロボットサービス Tel. 050-3000-4347
クリーンロボットサービス Tel. 050-3000-4335

■ 24時間ヘルプデスク

夜間・休日にトラブル等が起こったお客様へ
Tel. 078-990-3550

■ スクール総合案内

ロボットスクールをご検討されているお客様へ
Tel. 050-3000-4344

■ 部品修理

ロボット部品の修理をご検討されているお客様へ
Tel. 050-3000-4339

■ サービスセンター

東北サービスセンター
〒023-1131 岩手県奥州市江刺愛宕宿152

豊橋サービスセンター
〒441-8039 愛知県豊橋市西橋良町29

関西サービスセンター
〒651-2271 兵庫県神戸市西区高塚台2-1-9

九州サービスセンター
〒811-3135 福岡県古賀市小竹847-1

関東サービスセンター
〒326-0831 栃木県足利市堀込町116-3

名古屋サービスセンター
〒498-0066 愛知県弥富市楠3-20-3

玉津サービスセンター
〒651-2145 兵庫県神戸市西区玉津町居住92-1

南関東サービスセンター
〒252-0815 神奈川県藤沢市石川2-19-16

彦根サービスセンター
〒522-0201 滋賀県彦根市高宮町762-1

広島サービスセンター
〒732-0802 広島県広島市南区大州1-4-4



安全上の 注意

- Kawasaki Robotのご使用に際しては、必ず取扱説明書、その他付属図書などをすべて熟読し、正しくご使用いただくようお願いいたします。
- このカタログに記載の製品は、一般産業用ロボットです。本製品の故障や誤動作により、人体に危害を及ぼす恐れがある用途にご使用される場合は、必ず当社営業窓口にご相談ください。
- このカタログに記載している写真は、安全柵など法令法規で定められた安全性のための機器、装置などを取り除いて撮影している場合があります。

※このカタログに記載の内容は、改良のため、予告なく改訂・変更することがあります。

※このカタログに記載の製品は、日本国内向けです。海外設置の場合は、仕様が異なりますので、別途ご相談ください。

※このカタログに記載の製品には、“外国為替及び外国貿易法”で定められた規制貨物に該当する製品(または技術)が含まれています。該当製品を輸出する際には、同法に基づく輸出許可等が必要ですのでご注意ください。

そもそも、産業用ロボットとは？



自動化ニーズが高まる現代において、産業用ロボットは人手不足解消とビジネスチャンス拡大の切り札として注目されています。ロボットの種類は、大きく「産業用ロボット」と「非産業用ロボット」に分けられ、主に製造業や物流、農業、畜産などの分野で活躍するのが前者です。後者は警備や医療、福祉、宇宙などの現場で利用されるロボットを指します。

汎用性、柔軟性を有する産業用ロボットは、専用機の導入が困難な現場、大規模な設備改修が難しい現場などにも適用しやすいという利点を備えています。また、ロボットに作業をさせることで、データを蓄積することも可能です。蓄えたデータは他のロボットへの二次利用や、進捗管理、実績収集、トレーサビリティの確保に役立ちます。



川崎重工がロボット事業に取り組む理由



今後、労働力供給不足が社会課題になると予想

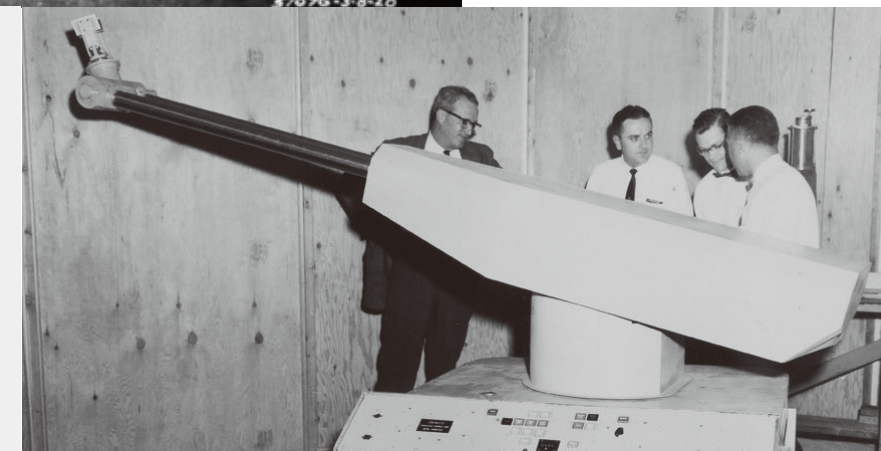
1960年代、川崎重工前身の一つであった川崎航空機工業（川崎重工の前身。1969年、川崎重工・川崎航空機工業・川崎車輛が合併）は化学合成繊維の産業機械を主力製品としていたが、軽工業から重工業の産業構造の転換を見越して新たな設備機械分野への進出を検討し市場調査を開始。

調査の結果、今後到来する高度経済成長期において、労働力供給不足と表裏一体の生産性向上が社会課題となると予想した。

ロボット分野への進出が最重要テーマとなる

これに対して、「社会の課題に技術でこたえる」という創業者の精神が呼応した結果、これまで蓄積してきた川崎重工の技術力を活かすことのできるロボット分野への進出が最重要テーマとして設定された。

時を同じくして、米国ユニメーションが産業用ロボットの日本での技術提携先を模索していることを察知すると、ただちにユニメーションに対して交渉を開始。1969年には、日本初の産業用ロボット「川崎ユニメート」の発表に結実する。



製造現場の自動化、半導体製造への貢献へと繋がる

国産初の産業用ロボット製造以来、モノづくりのDNAと自動化を希求するお客様に寄り添う姿勢は脈々と引き継がれている。それは川崎重工の挑戦に対して理解あるお客様によって高度成長期に自動車製造現場の自動化という形で芽を出し、ついで半導体製造装置による半導体製造の高度化への貢献に繋がった。

物流や医療などロボットの社会インフラ化への挑戦

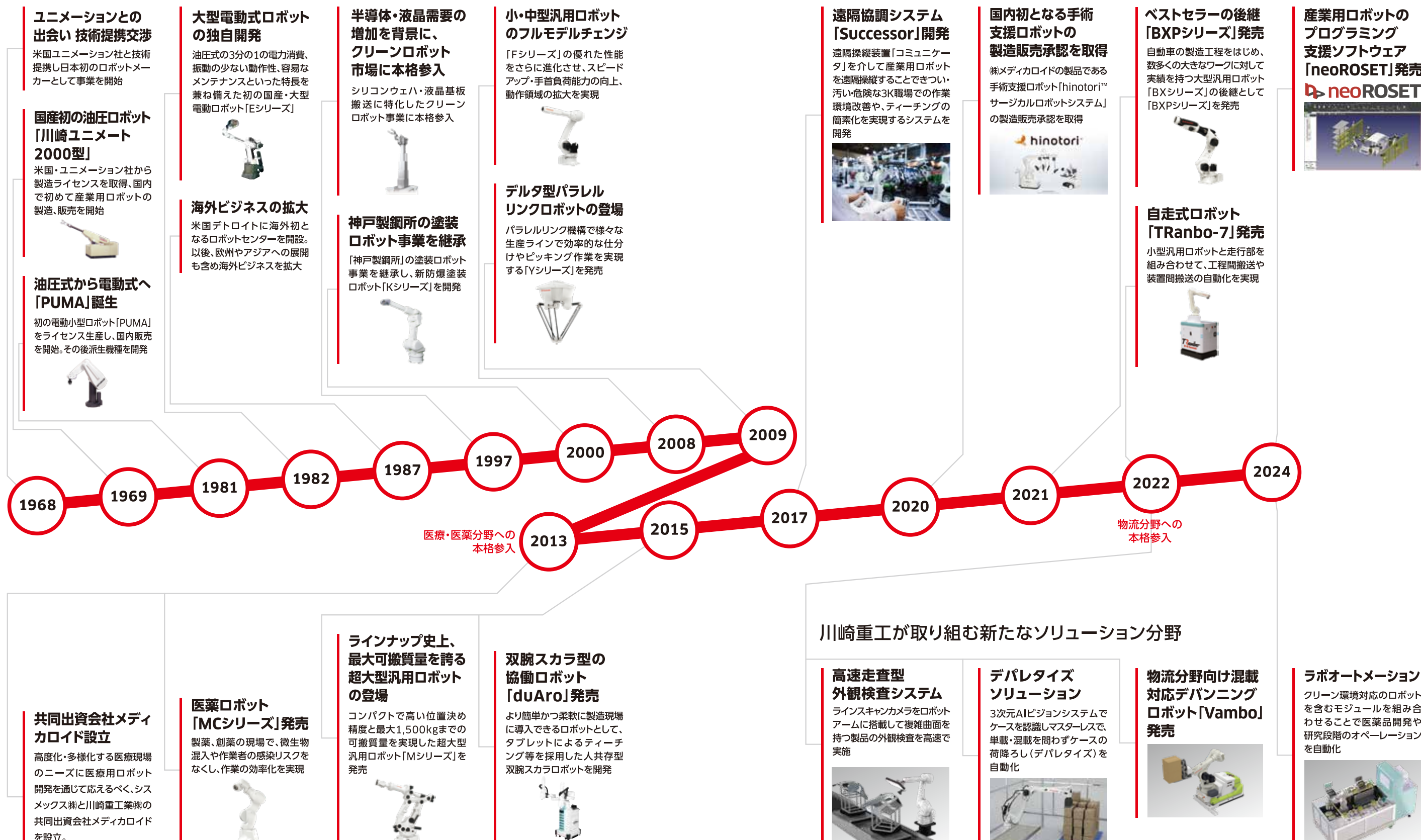
そして現在、日本のみならず世界的に顕在化している労働人口の絶対的な減少を背景に、高度成長期よりも遥かに広範な現場において自動化が求められるのに対して、川崎重工のロボット事業は製造現場にとどまらず物流現場や医療現場などその適用分野をますます広げ、ロボットの社会インフラ化という大きな課題に再び技術で応えるべく挑戦を続けている。



産業用ロボットメーカーから、社会課題を解決する総合ロボットメーカーへ。

1969年5月、川崎重工は、日本初の産業用ロボット「川崎ユニメート2000型」の製造販売を開始。半世紀を超える日本をはじめとした先進諸国では、急速な少子高齢化による労働力不足や熟練技術者の引退に伴う技能の消滅、製造現場を超え、人により身近な環境で活躍すべく大きな期待を集めています。川崎重工は、この大きな期待に

日本の産業用ロボットの歴史は、川崎重工から始まりました。など、様々な社会問題が大きく取り沙汰されています。このような問題の解決策としてロボットは、応えるため総合ロボットメーカーとして挑戦を続けます。



川崎重工の強みは豊富な専門知識と 経験を背景とした自動化への提案力です。

業界トップクラスの ロボットスペック

川崎重工のロボットは業界トップクラスのロボットスペックを誇ります。

2012年に発売されたBXシリーズは、数万台以上の出荷実績を誇り、2021年にはBXPシリーズへとモデルチェンジし幅広い業界で生産効率と品質向上に大きく貢献してきました。

BX/BXPシリーズのロボットは、100kgから300kgまで持ち上げることができ、組立、ハンドリング、スポット溶接、パレタイズなど、幅広い用途に対応することができます。ケーブルやホースを内蔵した中空手首構造により、周囲機器との干渉がなく、オフラインシミュレーションも容易に行えるため、高密度な設置が可能なのが特長です。



産業ごとの課題に応じた ソリューション

1990年代、デジタル化の急速な進展に伴い半導体・液晶需要が高まります。これに対応するため、川崎重工は自動車産業で培った6軸多関節ロボットのモーションコントロール技術を活かし、高速かつ機敏なウェハ搬送ができる「TS・TLシリーズ」を開発。クリーンロボット市場に本格参入しました。1995年に開発を開始したクリーンロボット事業では、世界トップシェアを誇る企業として、クリーンルームでの作業に特化したアーム形態を持つ高精度・高速なロボットを各半導体製造装置メーカーにOEM供給することで、製造工程の高度化に貢献しました。半導体の高性能化と生産量の大規模化を支えるソリューションを提供し、お客様のニーズに寄り添い続けてきたことで、現在市場での地位を確立しています。

物流工程における人手不足など、新しく顕在化する様々な産業課題に川崎重工は今後も向き合い続け、ロボットを活用した自動化ソリューションを提供していきます。



導入後も安心の保証体制

導入以降もお客様に安心してロボット設備をお使いいただくため、充実したサポート体制を準備しています。

カワサキロボットサービス株式会社が提供する信頼性の高いロボット保守パッケージ「K-COMMIT」は、ロボットの状態監視によって故障の事前予知、メンテナンスコストの最適化、稼働の最大化を実現します。

さらに、全国のサービスネットワークを通じた定期的なメンテナンスから迅速なトラブル対応まで、包括的なサポートでお客様の生産効率を最大化し、設備の長寿命化を実現します。安心のサポート体制で、お客様のビジネスの生産性と継続性を支えてまいります。



The Future We Envision

Industrial 進歩をささえる

川崎重工は50年以上にわたり、産業用ロボットの開発を進め、自動車産業や半導体製造分野など多様な領域へ技術を展開してきました。その原動力となったのはロボット自動化の総合的なソリューションを提案し、既存ロボットで実現できない場合は最適なロボットシステムの開発もいとお客様本位のDNAです。

■3K(きつい・汚い・危険)労働環境から人を解放

■さまざまな産業の生産工場において、効率的で正確な製造プロセスの構築に貢献

■お客様にとっての労働力不足の解消、コスト低減

■半導体の効率的な生産・生産品質向上に貢献することで、間接的にあらゆる産業や人々の生活の発展に寄与



Industrial

進歩をささえる
産業用ロボット



Medical 命をささえる

医療ロボット市場は2030年に約6.3兆円に成長すると予測され、2013年にシスメックスと合併で設立したメディカロイドは手術支援ロボット「hinotori™」を開発し、医療分野での貢献を進めています。メディカロイドはコンパクトで高い操作性を誇る「hinotori™」を製造販売し、泌尿器科を皮切りに他の診療科へと対応範囲を拡大しました。2023年にはシンガポールで販売承認を取得し、グローバル展開を開始。川崎重工はクリーンルーム環境での生産アセットやメンテナンス体制でサポートし、医療分野での負担軽減を推進しています。

■手術を受ける患者様の、身体的負担軽減の一助となり、QOL向上に貢献

■遠隔手術の実現により地域間医療格差と労働力不足の解消に貢献



Medical

命をささえる
医療用ロボット

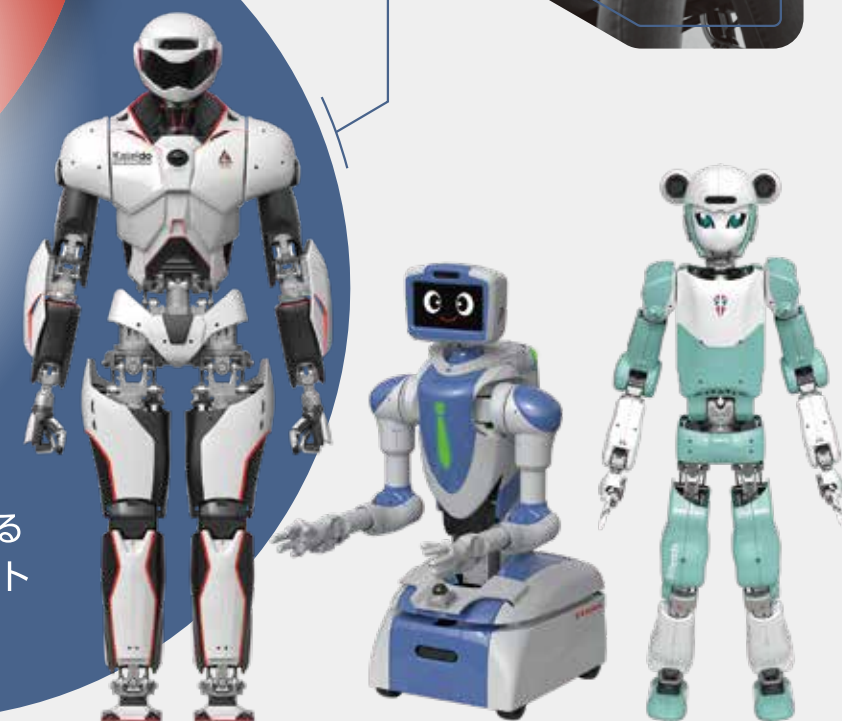


Sustainability & Creativity

人とロボットがそれぞれの強みを
活かしてワークシェアリングする
“持続可能性”と“人の創造性”が
両立した社会

Social

人の隣でささえる
ソーシャルロボット



Social 人の隣でささえる

少子高齢化と労働力不足が進む中、ソーシャルロボット市場は2030年までに約7.4兆円に成長すると予測されています。川崎重工は、ソーシャルロボットが人々の生活をサポートする役割を果たす社会の実現を目指し、ロボットが身近な存在となるよう、技術共創や社会実装を進めています。特に医療や介護現場でのロボット活用を進め、看護業務や介護作業の効率化を支援しています。2024年には「CO-CREATION PARK KAWARUBA」を開設し、さまざまなステークホルダーとの共創を通じて、ソーシャルロボットの実証試験や社会実装を進めています。

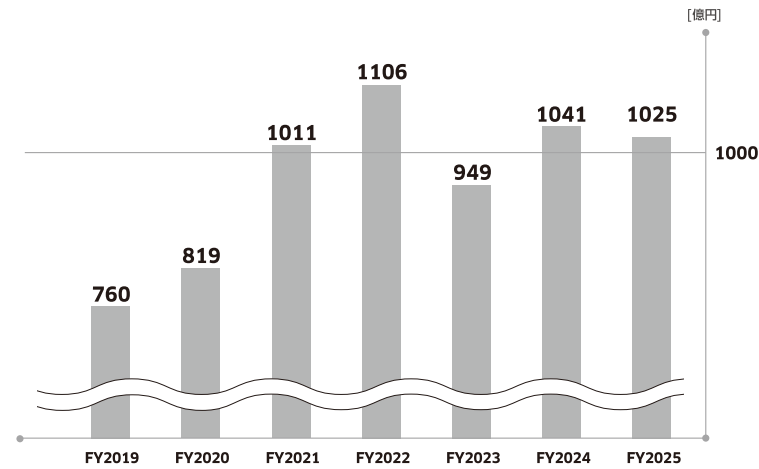
■病院や介護施設などにおけるエッセンシャルワーカーの
負担軽減による高度医療への資本集中

■お客様にとっての労働力不足の解消、コスト低減

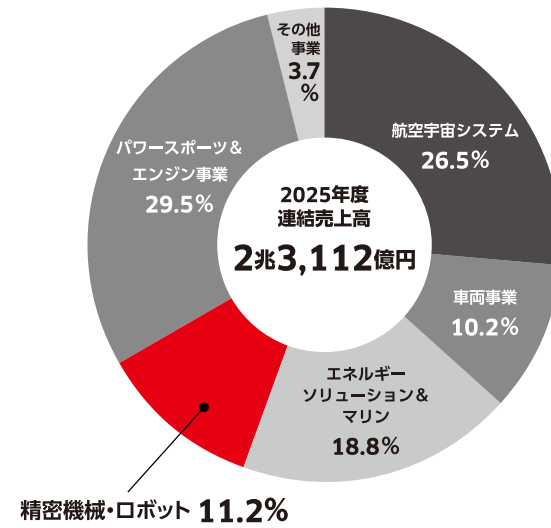


財務ハイライト (2025年度)

ロボットディビジョン売上推移



川崎重工 セグメント別業績



川崎重工は、グローバルにお客様のロボット導入をサポートしています。



組織

